

米帝のカンボジア侵略抗議！日米共同声明に基づき佐藤政府の侵略加担粉碎—愛知外相の「アジア会議」参加反対！「自衛隊」強化—沖縄配備計画粉碎！安保破棄・沖縄基地撤去全面返還 労働共闘の戦術的強化で6月反安保全国ストへ

全日本人の青年労働者、学生諸君！

米軍および南ベトナム「政府」軍のカンボジア侵攻、「カンボジア問題」に関する反共「アジア会議」への愛知外相参加という新たな情勢をむかえ、まず何よりもこの間の情勢の特徴を確認しようではないか。ニクソンによるカンボジア侵攻は、まさにそれがベトナム・ラオス等インドシナ半島における米帝の歴史的敗北と後退過程の中にひきおこされた一局面に他ならない。同時に米国内のインフレとこれに対する労働者の長期スト、「ドール防任」にからむ国防予算の切りつめが生み出した巨大軍需独占体の企業収益の後退と景気鈍化に直面したニクソンが、その支持基盤たる最も保守的反動的部門「産軍複合体」の圧力の下、その歴史的敗北過程をもみくりみす矛盾にみちた進へと突き進まざるをえなかったのである。しかし、それ故にこそ、それが国内外における圧倒的孤立と反撃の嵐をもたらさざるをえず、その破綻は当初から運命づけられているものである。南ベトナム民族解放戦線の「時間は我々に味方する」の言葉通り事態は進行しようとしている。この点こそこの間の情勢の特徴が存在するのであり、我々はインドシナ民族解放諸勢力、全世界反帝中和勢力の力の優位性をはっきりと確認しなければならない。したがって我々は情勢を「インドシナにおける戦争の泥沼化」としてしまふのではなく、戦争反対だけを叫ぶ立場（そこからはカンボジアからの相互撤退の主張を生み出さない）をきっぱりと拒否しなければならない。

オース、愛知外相の「アジア会議」参加の策動に注目しなければならない。ニクソンのカンボジア侵攻に対して「支持」を表明したのは日本帝国主義—佐藤政府のみであり、それが日米共同声明路線に基づく日帝の東南アジア侵入の重要な一環である事は最早、誰の目にも明らかである。まさに5月16・17日の「アジア会議」において自らの「インシアチブ」を最大限発揮する事により、名実ともに「アジアの盟主」としての地位を確立せんとするのが今回の愛知外相の「アジア会議」参加の本質であり、それが昨秋以降の日米共同声明の実質化—「自衛隊」強化—沖縄配備計画と共に70年代に向けた日本帝国主義の最も危険でかつ反動的な路線の具体化に他ならない。

かかる情勢の特徴をふまえるならば、インドシナ人民首脳会議で明らかにされたアジアにおける平和共存体制の確立をめざして叩き抜くインドシナ民族解放諸勢力の立場をしっかりと支持し、これと固く連帯すべく佐藤政府の「日米共同声明」路線に基づく侵略加担—愛知外相の「アジア会議」参加に反対し、更に「自衛隊」強化（中曽根発言を見よ）—沖縄への配備策動とを軸とした安保条約の更質的再編、「アジア安保」—「核安保」と対決してゆかねばならない。そしてかかる叩き抜く、政府独占の政治焦点を回避した政策レベルとの対決とならざるをえないが故に、単なる自己満足の「自然発生的街頭カンパニア闘争」としてではなく、情勢に機敏に対応した職場・生産点・生活点・学園における徹底した政治暴動とそこに基礎をおく組織化された（ウラハ）

民主主義学生同盟大阪府委員会

大阪市阿倍野区松崎町4-1-14

TEL (623) 1495

聞「之が不可である、その重なるて我々の側から
全国的、全人民的政治運動の形成を妨げねばならぬ。
若年層の中で培われつつある職場生産点における聞
うエネルギーの蓄積と学生層の圧倒的運動の胎動に注目
し、その運動と連帯と共闘の着目と積み重ねの上に、我
々の聞「を前進させてゆくべきである」。

労学共闘の戦場的強化の下、
八月反安保全国フー「へ前進せよ。